

修士論文(要旨)

2010年1月

ブラジル人日本語教師の成長を促す諸要因  
ーインタビューデータの分析と考察からー

指導 宮副ウォン裕子 教授

国際学研究科

言語教育専攻

208J4014

後田聡子

## 目次

<b>第1章 はじめに</b> . . . . .	1
1.1 研究の背景 . . . . .	1
1.2 用語の定義 . . . . .	2
1.3 研究の目的 . . . . .	4
1.4 先行研究の概要 . . . . .	4
<b>第2章 公教育と日本語教育の現状</b> . . . . .	6
2.1 公教育全般 . . . . .	6
2.2 公教育における日本語教育 . . . . .	7
2.3 公教育外における日本語教育 . . . . .	9
2.4 第2章のまとめ . . . . .	10
<b>第3章 日本語教師教育の現状と課題</b> . . . . .	11
3.1 ブラジル国内 . . . . .	11
3.2 日本国内 . . . . .	15
3.3 課題 . . . . .	17
<b>第4章 ブラジル人教師に対する調査</b> . . . . .	21
4.1 研究方法 . . . . .	21
4.2 分析と考察 . . . . .	25
4.3 第4章のまとめ . . . . .	33
<b>第5章 教師教育者に対する調査</b> . . . . .	34
5.1 研究方法 . . . . .	34
5.2 分析と考察 . . . . .	36
5.3 第5章のまとめ . . . . .	41
<b>第6章 総合的考察</b> . . . . .	42
<b>第7章 「教師の成長」を促進する要因</b> . . . . .	46
7.1 実際の活動案 . . . . .	46
7.2 枠組み再考 . . . . .	50
<b>第8章 おわりに</b> . . . . .	52
8.1 本研究で明らかになったこと . . . . .	52
8.2 残された課題と提言 . . . . .	55

謝辞、参考文献、資料

## 第1章 はじめに

ブラジルの日本語教育では、学習者の多様化を背景に、日本語教育の専門的知識を持つ日本語教師の必要性が増している。こうした状況下で、教師の成長や教師教育について再考することは重要である。特に教師教育者と受け手であるブラジル人教師(以下、NNT<sup>1</sup>)の意識における齟齬の存在と原因に関心を持った。

本研究では次の4つの研究課題<sup>2</sup>を明らかにすることを目的とする。1) NNTの教師としての成長(停滞)の実態及び自己の今後の成長に望むことは何か、2) 教師教育者は教師教育の目的及び効果をどう捉えているか、3) NNTの考えと、受講可能な研修の内容や教師教育者の考えとの相違点はないかを明らかにし、4) 以上3点を踏まえ、NNTの成長のために望ましい支援のあり方を提案する。

海外におけるNNT対象の教師教育に関して、実証的な研究は、これまでほとんど行われていない。本研究はこうした点を補完し、新たな視座を提案出来ると考える。

## 第2章 公教育と日本語教育の現状

ブラジルの教育は、1996年に公布された「国家教育方針および基本法(LDB法<sup>3</sup>)」に拠る。日本語は第二外国語の一つとして扱われている。高等教育では、2009年現在、7つの大学が日本語専攻課程を持っている。ただし、現在もブラジルの日本語教育の中核は各地の日系団体が運営する日系日本語学校である。JHL<sup>4</sup>だけでなく、JFL<sup>5</sup>として学ぶ人が日系・非日系を問わず増加し、学習者及び学習目的の多様化が見られる。

## 第3章 日本語教師教育の現状と課題

国際交流基金サンパウロ日本文化センターは公教育における日本語教育、一部の大学は日本語教師養成課程の中で教師教育を行う。公教育外ではブラジル日本語センターによる教師教育、地方研修等がある。日本での教師教育は、JICAによる日系研修、基金による海外日本語教師研修がある。

ブラジルにおける教師教育を取り巻く環境には多くの課題がある。地理的要因、経済的要因、IT環境、内容、雇用体系など8つに分類し、課題を提示した。

## 第4章 ブラジル人教師に対する調査

RQ1に関して詳述した。NNT<sup>9</sup>名などに、半構造化インタビューを行った。文字化したデータを用い、質的な分析と考察をする。「教師の成長」と教師教育の関わりを示すため、Glickman(1981)と横溝(2008)を組み合わせた作業枠組みを使用する。

NNTは、教師として万能でありたいと望み、校内での協働、リソースの活用、校外での教師教育の受講を通して、日本語力と日本語教育力を身につける必要があると考えている。また日系と非日系は共に成長出来ると述べる一方で、各自の属性から自己効力感を得ていることが分かった。

<sup>1</sup> NNT=Non Native Teacher 非日本語母語話者教師を指す。日系と非日系の双方を含む。

<sup>2</sup> 研究課題1~4をResearch Questionとし、以下RQ1~4と表す。

<sup>3</sup> LDB法=Lei de Diretrizes e Bases da Educação

<sup>4</sup> JHL=Japanese as a Heritage Language 継承日本語

<sup>5</sup> JFL=Japanese as a Foreign Language 外国語としての日本語

## 第5章 教師教育者に対する調査

RQ2 に関して詳述した。ブラジルの様々な機関に所属する教師教育者 8 人に、半構造化インタビューを行い、文字化した。分析方法は第 4 章と同様である。

教師教育者は日系と非日系の双方にメリットとデメリットがあると捉え、NNT が広い視野を持ち、成長し続けることを望んでいる。

望ましい教師教育として、知識や技能のブラッシュアップ、人的ネットワーク構築、継続参加、参加型活動がポイントだと考えている。

## 第6章 総合的考察

第 4 章と第 5 章を俯瞰し、RQ3 に関して詳述した。NNT の意識と教師教育の内容に、齟齬が生じることがあると実証された。

日系と非日系の協調体制を後押しすることの重要性、教師教育の内容の再検討、そして受講後の NNT/企画・運営に携わった教師教育者/教師教育それ自体への 3 つの評価の重要性が明らかになった。

教師教育者の NNT の捉え方に、理想と現実が織り混ざることが分かり、教師教育に客観性が求められることを確認した。

ブラジルの NNT の資質を「属性のみを重視しない」「専門性」「学習意欲」とまとめた。

## 第7章 「教師の成長」を促進する要因

RQ4 に関して詳述した。実際の活動案として、校内ではピア・レビュー、活動紹介の実施を挙げた。校外では、教師教育を恒常的に改善するための調査と振り返りの実施、内容の細分化に対する複式講義の実施を提案した。日ポのバイリンガルで行う参加型活動案を 3 つ提案した。また、調査結果を受けて、作業枠組みをブラジルの NNT に合うように改訂した。

## 第8章 おわりに

RQ および表題に対する答えと残された課題を提示した。ブラジルの日本語教育について、日本語教師の認定システム構築、日本語教育機関の窓口の一本化、IT の活用、高等教育機関における日本語教育研究の深まりの必要性、教師教育者に対する教育などを提案した。また、JHL から JFL へ重心を移す中で、移動する日系がブラジルの日本語教育に与える影響について示唆した。

### 【謝辞】

調査協力者、ご指導頂いた先生方には、大変お世話になりました。衷心より感謝申し上げます。

また、本研究は「社団法人協力隊を育てる会」の「帰国隊員／青年支援プロジェクト」に認めて頂き、支援を受けました。心から謝意を表します。

## \*参考文献

- アンダーソン, ベネディクト(2007)『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』  
書籍工房早山
- 江原裕美(2007)「ブラジルにおける日本語教育の現状と課題」『帝京大学外国語外国文学論集』第  
13号, 25-62
- 遠藤クリスチーナ麻樹・三浦多佳史・武藤祥子・モラレス, 松原礼子・吉川, 一甲真由美エジナ(2008)  
『70 PERGUNTAS DE PESSOAS QUE ENSINAM JAPONÊS NO BRASIL ブラジルで日本語を教  
える人の質問 70』日伯文化連盟
- 岡崎敏雄・岡崎眸(1997)『日本語教育の実習—理論と実践—』アルク
- 金田智子(2009)「日本語教師の育成および成長支援のあり方—「成長」にかかわる調査研究の推進  
を目指して—」水谷修監修『日本語教育の過去・現在・未来 第二巻「教師」』凡人社, 42-63
- 川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のためのガイドブック(上)(下)』ひつじ書房
- キシモト, チズコ・モルチダ(2001)「ブラジルにおける教育及び第二外国語としての日本語教育」『世  
界の日本語教育<日本語教育事情報告編>』no.6 国際交流基金日本語国際センター,  
153-171
- 佐々木倫子(2003b)「3代で消えないJHLとは?—日系移民の日本語継承」『2003年度日  
本語教育学会春季大会 予稿集』, 242-245
- 山東功(2005)「ブラジル日系社会における混成日本語「コロニア語」の意味」  
『大阪女子大学紀要』56, 71-81
- 春原憲一郎・横溝紳一郎編著(2006)『日本語教師の成長と自己研修 新たな教師研修ストラテジー  
の可能性を目指して』凡人社
- 宮尾進(1998)「ブラジル日系社会における日本語教育—現状と問題—」『人文研』 no.1  
サンパウロ人文化学研究所, 2-34
- 横溝紳一郎(2008)「教師の資質・成長過程と、その支援方法」西原鈴子・西郡仁朗編(2008)『講座  
社会言語科学 第4巻 教育・学習』ひつじ書房, 182-214
- 横山紀子(2005)「第2言語教育における教師教育研究の概観—非母語話者現職教師を対象とした  
研究に焦点を当てて—」『国際交流基金 日本語教育紀要』第1号, 1-19
- Glickman, Carl D. 1981. *Developmental Supervision: Alternative Practices for Helping  
Teachers Improve Instruction*. Alexandria: Assn for Supervision & Curriculum

## \*参考 Web サイト

- 国際交流基金 <http://www.jpf.go.jp/j/index.html> 2009年10月21日アクセス
- 国際交流基金サンパウロ日本文化センター <http://www.fjsp.org.br/>  
2009年9月21日アクセス
- ブラジル地理統計院 (IBEG) <http://www.ibge.gov.br/home/> 2009年12月17日アクセス
- ブラジル日本語センター <http://www.cblj.com.br/index.html> 2009年10月21日アクセス